

一括審議の審議方法について

審議区分について

1. 重点審議（事業進捗等に大きな変更が生じた事業）

事業期間、総事業費等の事業進捗等に大きな変更が生じた事業は、これまでと同様の資料により、審議を行うこととする。

2. 一括審議（事業進捗等に大きな変更がない事業）

(1) 目的

「事業進捗等に大きな変更がない事業」については、一括審議により、審議の簡明化を図る一方、「事業進捗等に大きな変更が生じた事業」については、十分な審議時間の確保を図る。

(2) 審議方法

事業進捗等に大きな変更がない事業は、説明内容を絞り込んだ一覧表による一括審議方式で行うこととする。

- 事業進捗等に大きな変更がないと判断した理由を明確にする。
前回評価と比較し、下記条件に該当しない
 - ①事業を巡る社会経済情勢等の変化がない
 - ②事業費の増加が10%を超えない
 - ③事業期間の増加が10%を超えない
- 当面は補足資料を用い、個別事業の補助的な説明を行う等試行する。

(3) 今後の方針

当面の試行を通じ、方法及び資料構成等について適時、見直しを行う。

近畿地方整備局事業評価監視委員会再評価資料（事業進捗等に大きな変更がない事業）

| 事業名 (箇所名) | 実施箇所 | 事業期間等 | 総事業費 (億円) 上段： 前回 評価時 下段： 現時点 | 事業概要 | 事業を巡る 社会経済情勢等 の変化 | 主な事業の 進捗状況 | 主な事業の進捗 の見込み | コスト縮減や 代替案等 の可能性 | 事業の投資効率性 | | 都道府県・政令市等 の意見 | 対応方針 (原案) |
|-----------------------------|------------------------------------|----------------------------------|--|--|--|---|--------------------------------------|--|---|--|---|--------------|
| | | | | | | | | | 【事業全体】 | 【残事業】 | | |
| 一般国道 29号 姫 路北バイ パス | 兵庫県姫路市相 野～兵庫県姫路 市林田町六九谷 | H2年度事業化 H9年度用地着手 H15年度工事着手 | 250 250 (±0%) | 一般国道29号は、兵庫県姫路市と鳥取県鳥取市を結ぶ約120kmの主要幹線道路であり、播磨地域の南北方向の交通を担う道路です。 姫路北バイパスは、姫路市域の一般国道29号の交通混雑の緩和、交通安全の確保、沿道環境の改善等を目的とした延長約6.2kmのバイパスです。 | 事業の効果や必要性を評価するための指標の変化及びその他の周辺環境変化等について確認した結果、事業の目的が失われるような社会経済情勢の変化はない。 | 進捗率 (事業費) 約61% 用地取得率 (面積) 約42% | 事業進捗上の大きな課題はなく、引き続き事業を推進し、早期の開通を目指す。 | 今後も、技術の進展に伴う新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めながら引き続き事業を推進していく。 | 【事業全体】 総便益B ：434億円 総費用C ：361億円 B/C=1.2 | 【残事業】 総便益B ：285億円 総費用C ：103億円 B/C=2.8 | 一般国道29号姫路北バイパスの「事業継続」との方針に同意します。 姫路北バイパス（約6.2km）のうち、これまで南側約1.5kmが供用（暫定2車）され、現道の交通量が大幅に減少したことにより、石倉交差点の渋滞解消や沿道の環境が改善されるなどの効果が発現されているが、残る4.7km区間では渋滞などの課題が残っている。 また、姫路北バイパスの開通により、世界文化遺産・国宝姫路城へのアクセスが向上するなど、広域観光振興を図るうえで大きな効果が見込まれている。 こうしたことから、今後ともコスト縮減を図っていただくとともに、開通の見通しを示しつつ、早期全線開通に向けてこれまで以上に積極的に取り組んでいただきたい。 | 事業継続 |
| 一般国道 2号 相生 有年道路 | 兵庫県相生市若 狭野町鶴亀～兵 庫県赤穂市東有 年 | S60年度事業化 H4年度用地着手 H8年度工事着手 | 394 429 (+8.9%) | 一般国道2号は、大阪市北区を起点とし、兵庫県、岡山県、広島県、山口県を経て北九州市門司区に至る延長約685kmの主要幹線道路です。バイパス整備や現道拡幅を東側から進めてきており、順次多車線化が完了しています。 相生有年道路は、相生市及び赤穂市の一般国道2号における交通混雑の緩和、交通安全の確保、沿道騒音の改善等を目的とした延長8.6kmの道路です。 | 事業の効果や必要性を評価するための指標の変化及びその他の周辺環境変化等について確認した結果、事業の目的が失われるような社会経済情勢の変化はない。 | 進捗率 (事業費) 約66% 用地取得率 (面積) 約87% | 事業進捗上の大きな課題はなく、引き続き事業を推進し、早期の開通を目指す。 | 今後も、技術の進展に伴う新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めながら引き続き事業を推進していく。 | 【事業全体】 総便益B ：668億円 総費用C ：537億円 B/C=1.2 | 【残事業】 総便益B ：504億円 総費用C ：144億円 B/C=3.5 | 一般国道2号相生有年道路の「事業継続」との方針に同意します。 当該区間は交通混雑が発生していること、幅員が狭く、歩道未設置区間があるため自動車、自転車及び歩行者の安全な通行が阻害されている。加えて、大型車混入率が高いことも原因となり、沿道騒音が環境基準を超過していることが課題となっている。 また、このたび事業費が増額することとなるが、相生有年道路は、JR有年駅周辺の区画整理事業の完成と相まって、地域の活性化に寄与する重要な道路である。 こうしたことから、今後ともコスト縮減を図っていただくとともに、このたびR4年度の部分開通の見通しが示されたところであるが、早期全線開通に向けて開通の見通しを示しつつ、これまで以上に積極的に取り組んでいただきたい。 | 事業継続 |

〇一括審議案件に対する意見等について

| 【事業名】 一般国道29号姫路北バイパス | |
|---|---|
| 意見・質問 | 回答 |
| (事業の概要) 事業進捗率が低い。5年で2%としか上がっていないのはなぜか。 | 事業進捗率は予算ベースの値。予算上は進捗していないが、この5年は設計や用地交渉を進めてきており、地元調整も順調に進んでいるところ。工事が進めば大きく進捗することになります。 |
| (事業を巡る社会経済情勢の変化) OD表と将来交通量に相関性はあるか？ | OD表は各調査年度における交通ネットワークの現況再現をした際の国道29号(当該事業を含む)を利用する総交通量であり、将来交通量はR12年時点の交通ネットワークにおける該当事業の各断面交通量を加重平均したものであるため、一概に相関性があるとはいえません。 |
| (事業の投資効果(B/C)) 全体事業費250億円と前回費用361億円の差は何か | 361億円は維持管理費を含む、現在価値化した値です。 |
| (事業の投資効果(B/C)) 維持管理費の単価が大きく変わっているのは、また、維持修繕費が増えているが、一律で同じ単価をかけるということは特に、開通直後は維持修繕費もあまりかからないので、B/C上は不利に働いているという説明か。 | 維持管理費は事業評価年度の前、3か年の平均値を用いており、近年増加傾向となっている。過去に建設された道路が古くなり、老朽化施設の割合が多くなり、維持・修繕すべき箇所や頻度が増加していることが一因と考えられる。実際には、開通直後は維持管理や修繕にかかる費用はあまりかからないため、B/C上は不利に働いている場合もあると考えられます。 |

| 【事業名】 一般国2号相生有年道路 | |
|--|--|
| 意見・質問 | 回答 |
| (参考：事業費の見直し) 前回評価時(H29)には橋梁架け替えの増額は分らなかったか | H29年度は設計を実施しておらず事業費増を実施できませんでした。H31年度に詳細設計を実施し増額が確定したため、本年度評価委員会に諮ります。 |
| (参考：事業費の見直し) 増額は理解できるが、例えばもっと早くに設計をおこなってれば、事業期間の3年延長は避けられたかもしれない。 | H28.3に若狭野交差点まで4車線開通しており、若狭野交差点以西についても順次拡幅事業を進めてきたところ。H29以降、有年橋の架替については、詳細設計を実施するまでは耐震補強による現橋活用を考慮しており、事業期間内に完了する旨でした。詳細設計をすずめ、兵庫県との河川協議の中で耐震補強によるさらなる河積阻害については認められないと指摘があったため、現橋も撤去、架替する必要が生じたことから工期の延長を行いました。 |
| (事業を巡る社会経済情勢の変化) OD表と将来交通量に相関性はあるか？ | OD表は各調査年度における交通ネットワークの現況再現をした際の国道2号(当該事業を含む)を利用する総交通量であり、将来交通量はR12年時点の交通ネットワークにおける該当事業の各断面交通量を加重平均したものであるため、一概に相関性があるとはいえません。 |
| (事業の整備効果) 大型車の交通量が多いが、要因は何か。 | 神戸および岡山方面に工場郡が多いので物流関係の交通需要により、東西それぞれの方面からの交通が多いと考えられます。 |
| (事業進捗の見込みの視点) コロナで事業の遅れはあるか。 | 工事の一時中止はあったが、全体工程に遅れはありません。 |